

米田知子 Tomoko YONEDA



2017年のパリ文化会館個展のために制作されたアルベール・カミュを題材にしたシリーズより。マルヌ会戦の塹壕跡とカミュの父親の記憶を題材にした作品と、サルトルの眼鏡を通してカミュのテキストを見るという20世紀の人類の知の存在を今日の我々に問いかける意欲的な代表作をご紹介します。

絡まる – マルヌ会戦の塹壕跡に立つ木々

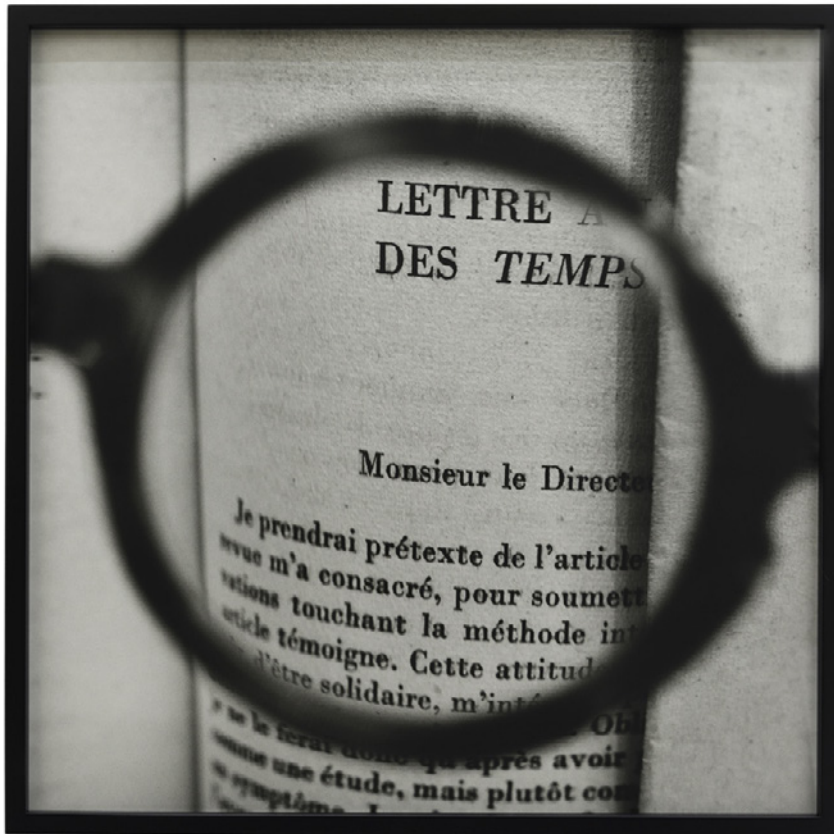
2017

Chromogenic print

image: 65 × 83cm, frame: 78.5 × 96.6cm

Ed. 10

米田知子 Tomoko YONEDA



サルトルの眼鏡 - 『レ・タン・モデルヌ』の編集長サルトルに宛てられたカミュからの書簡を見る

2018

gelatin silver print

image: 120 × 120cm (Ed.5), 75 × 75cm (Ed.7), 38 × 38cm (Ed.8), 19 × 19cm (Ed.25)

frame: 137 × 137cm, 78.2 × 78.2cm, 65 × 55.5cm, 38.6 × 33.6cm